

ソーシャルビジネス・ネットワーク



平成31年4月1日～令和2年3月31日
年次レポート

S B N

ANNUAL REPORT
Social Business Network (SBN)

代表理事からのご挨拶

新型コロナウイルスの感染拡大がなかなか収束しませんが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

それにしても、新型コロナウイルスは21世紀の世界を一変させてしまうほどの激震を与え続けています。

1930年代の世界恐慌以上の経済危機が到来しそうです。

日本でも、今後、多くの会社が倒産に追い込まれることになるでしょう。

中小の飲食店では以前のような営業ができなくなるかもしれません。

教育、スポーツ、芸術、文化活動などにも大きな影響が出ています。

一方で、新しい動きも出ています。

オンラインを活用した仕事の進め方や人々の交流は、新しい時代の潮流を生み出し始めています。

生活のあり方も変わるでしょう。

また、コロナ後は、弱い立場におかれた高齢者や障がいを持つ人々の支援、貧困の削減、農村や地域社会の活性化などが、一層求められるようになるでしょう。

そのためには、多様な生き方を認め合い、支え合う社会を実現しなければなりません。

私たち「ソーシャルビジネス・ネットワーク」の知恵と経験、行動力が必要となる時代がやってくるのです。

どうか皆様、このコロナ禍を生き抜き、難局を乗り越えて、元気にお過ごしください。

またお会いするときは、新しい社会をつくるために皆様のお力をお貸しください。



目次

I. 事業報告・事業活動計画	3
1 事業活動報告・事業活動報告.....	3
1.1 シフトラボ事業の継続展開.....	3
1.2 社会事業家 100 人インタビュー	10
1.3 政策提言(アドボカシー活動)の推進.....	10
2 組織運営報告・組織運営計画.....	11
1.1. 会員について	11
1.2. 広報・PR	11
1.3. 定例会議.....	11
II. 中期活動計画の考え方	12

I. 事業報告・事業活動計画

1 事業活動報告・事業活動報告

1.1 シフトラボ事業の継続展開

地方創生や SDGsなどをテーマとし、「地域シフトラボ」や「ビジネス・シフトラボ」などのプログラムをもとに、ビジネスパーソンを対象としたプログラムを展開すると共に、法人・国・自治体への重点的な営業開発、事業開発を図った。

1.1.1 地域シフトラボ

① 陸前高田市での展開

今期は、前期に続き、「平成 31 年度 地方創生推進交付金」の採択を受け「ユニバーサル・タウン陸前高田」創造事業を、岩手県陸前高田市からの委託を受け展開した。(平成 31 年 7 月～令和 2 年 3 月)

【全体概要】

平成 30 年度は、「ユニバーサル・タウン陸前高田」構想は、陸前高田市が掲げる「ノーマライゼーションという言葉のいないまち」実現へのアプローチの一施策として、「誰もが生き生きと働くことのできる環境づくり」を主軸として位置付け、さらに、それを「持続可能なかたちで維持・展開していくこと」を強く意識し、誰もが協働共生できるまちの実現を目指す事業。構想を実現していくために、3つのモデルに基づく3つの事業を推進した。

〔3つのモデル〕

ユニバーサル就労モデル	障がい者、高齢者、生活困窮者等、誰もが生き生きと働くことのできる環境を創るために必要な機能
匠ビレッジモデル	就労の受け皿に加え、比較的小さな形でビジネスを開発し、生きがいにもつなげていくことを支援する機能
ダイバーシティ推進モデル	都市部の企業や大学と連携しながら多様な健康やウェルネスによる雇用や生活環境を整備する機能

〔3つの事業〕

就労環境整備事業 「ユニバーサル就労支援センター」	多様な就労困難者への就労支援と、雇用側への支援を一体化した伴走型のマッチング事業
基幹就労受け皿事業 「発酵の里エコ・ガーデン&ファーム」	独自性のある新たな産業やビジネス集積を図ることにより、多様な雇用形態や条件に臨機応変に対応し、ユニバーサル就労のモデルにもなる就労の受け皿事業
医食農福連携サポート事業 「リポーン・ヘルスラボ」(仮)	福祉的観点も持つオーガニックな農業の展開により、豊かな食生活の健康・ウェルネスを創出する事業。

A: 就労環境整備事業「ユニバーサル就労支援センター」

令和元年6月1日には、就労の医師や希望はあるものの、なんらかの障壁にぶつかって動けずにいる人を支援するための「ユニバーサル就労支援センター」を旧「ひまわりハウス」に開設した。池本修吾フェロー紹介の「ユニバーサル就労ネットワークちば」のノウハウ移転による業務内容を展開している。現状予想を超える相談者が来訪しており、マッチングすべき仕事の開拓が急務となっている。令和2年度から事業自立を目指し、別途補助金や自主事業等、検討しながら事業継続中。

B: 基幹就労受け皿事業「発酵の里エコ・ガーデン&ファーム」

今年度、陸前高田市のまちなか再生計画の変更承認を経て、津波立地補助金の獲得を目指し、申請を行った。補助金採択を経て、令和2年7月商業施設着工、11月竣工、11月末オープン予定で、「陸前高田 発酵パーク CAMOCY(カモシー)」として、田村満フェローや河野通洋フェローと共に開業準備中。役員会や営業企画会議等を通じて、事業戦略立案や業務推進等、事務局により業務サポートを実施中。

【アグリ・フードビジネスコース】

陸前高田市で取組まれている“発酵”で“復興”プロジェクトと連携し、座学とワークショップキッチンを活用し、「発酵」の魅力を楽しく・美味しく・ソーシャルデザインする講座。ゲスト講師として、河野通洋フェロー、田村満フェローが参加した。

- 開催日: 令和元年7月5日、7月22日、8月5日、8月19日、9月9日、9月30日、10月21日
- 講師: 中村正明 氏(関東学園大学 教授、東京農業大学 客員研究員、大丸有「食」「農」連携推進コーディネーター)
- 会場、開催時間: 3×3 Lab Future、18:30~20:30

【発酵をとことん楽しむ一日 ~CAMOCY_project~】

来年度のオープンを予定している「発酵」をとことん楽しむ施設「CAMOCY(カモシー)」のお披露目の場として、令和元年8月5日の発酵の日に、発酵食をとことん楽しむイベントを開催。陸前高田の



発酵食の試食、醤油づくり、トークショーなどを行い、河野通洋フェロー、田村満フェローが登壇した。

- 開催日：令和元年 8 月 5 日
- 会場、開催時間：3×3 Lab Future、11:30～20:30

【丸の内 de 地方創生 in 陸前高田】

トークショーや陸前高田市の生産者・加工業者等によるこだわりの逸品のプレゼンテーションなどを行い、河野通洋フェロー、田村満フェローが登壇した。

- 開催日：令和元年 10 月 24 日
- 会場、開催時間：3×3 Lab Future、18:30～21:00

【陸前高田の発酵とまちづくりフォーラム】

東京農業大学名誉教授であり、発酵学の権威である小泉武夫 氏を陸前高田市に招き、市民を対象とした発酵のまちづくりに関するPRイベントを実施。小泉武夫 氏と河野通洋フェローとの対談、発酵食の試食会などを行った。

- 開催日：令和元年 11 月 30 日
- 会場、開催時間：陸前高田市コミュニティホール 大会議室、13:30～16:30

C: 医食農福連携サポート事業「リボーン・ヘルスラボ」(仮)

陸前高田市の発酵と健康関連商品の、東京を中心とした全国に向けたプロモーションを展開することによる、販路の拡大や観光客等の誘致、「発酵の里」を始めとした社会起業家誘致と、インキュベーションの推進、関係人口の増加を意図した、「陸前高田市の発酵と健康商品に関する『東京／丸の内 de 地方創生 陸前高田編 2020』プロジェクト」を実施。東京農業大学や立教大学との連携を図った。また隣接するワタミ・オーガニックランド事業との連携・サポートを渡邊美樹 顧問、小出浩平フェローと検討した。

D: 陸前高田市 東京丸の内と連携した地場産品ブランド化推進事業

震災後9年を経た陸前高田市において、ポスト復興期ともいえる段階に入りつつある2年度の取組みとして、持続可能な産業振興を推進する戦略の一つという位置付けで、「東京丸の内と連携した地場産品ブランド化推進事業」を実施する。復興を誓い合っつながった絆を基に、市内の伝統的な食文化や産物、新設された商業施設や開発されつつある商品・サービスを、東京などの重点的な消費地や健康・オーガニック志向等を持つ新たな消費者のコミュニティイン/ソーシャルインによる発想や交流によって、時代に即したトータルプロデュースによるブランディングを図り、地産地消・地産外商を目指した市場開拓や販売促進を進めるフードチェーン展開として企画開発および事業推進を行う。市内組織とも連携し、持続可能な成果の蓄積を目指す。東京農大・中村研究員と連携して基本方針の検証を進めながら、実証により計画の推進・展開を図る。

E:東京農業大学・ワタミグループ連携サポート

東京農業大学とワタミグループが、陸前高田市ワタミ・オーガニックランドをひとつのフィールドとして、有機的農業事業に適した土壌・基盤づくり、環境配慮型の有機的農業の基準づくり、健康食材としての農産物のエビデンスづくり、各地域における商品開発、持続可能な農業経営、資源循環・森林再生などの環境事業をテーマとして長期的連携を図る上で、ワタミ・渡邊美樹顧問・小出フェロー及び東京農大・中村正明研究員を介して、業務推進や資金管理等のサポート業務を事務局により実施する。

② beyond2020 ソーシャルイノベーション・プロジェクトの展開

中村陽一 常任顧問の発案により、主に首都圏のビジネスパーソンを、ソーシャルタウンの担い手として育成し、地域企業とのフィッティングを図ることによるソーシャルイノベーションの推進を意図した事業「beyond2020 ソーシャルイノベーション・プロジェクト」を、外部メンバーの協力を得ながら展開。具体的には静岡市において、内閣府「地域就職氷河期世代支援加速化交付金」事業として、地域における氷河期世代を中心にしたソーシャルイノベーションの取組みを企画、加藤康之氏と共に内閣府での採択を目指し推進中。企画としては、就職氷河期世代に対して、望まれるダイバーシティ社会に即した新たなキャリアデザインの考え方によるハイブリッド型サードプレイス「ライフデザイン・ビレッジ」創設により、社会的就労も視野に入れた「社会的居場所」としての機能に加え、リカレント教育としてのオンラインIT研修プログラム「Skills Buildステーション」の機能も兼ね備えた、今後他地域に水平展開も可能な社会的創発プラットフォームとして実現するもの。外部メンバーと共に静岡市と協議中。

1.1.2 ビジネス・シフトラボ

今期は、前期に続き、東京大学・情報学環とも協働し、ハウスメーカーからの依頼による研究会を行うとともに、「丸の内プラチナ大学」等の取り組みを通して更なる事業開発を図った。

また新規案件として、IBM 社会貢献事業の構築・運用、中村陽一常任顧問が会長を務める社会デザイン・ビジネスラボへの支援事業などを行った。

① IBM SkillsBuild プロジェクト

日本 IBM からのグランツにより、スキルアップやキャリアアップに意欲のある女性、就職氷河期世代の方々、新型コロナウイルス感染症の環境下において、働く上で影響を受けている方々を対象とし、IT スキルを身に着けることによる再就職を支援する、オンラインラーニングプログラムの提供、社員による個別サポート等を行う事業「IBM SkillsBuild プロジェクト」を展開。SBN 内に「SkillsBuild 委員会」設置し、SBN フェローとして就任いただく SkillsBuild 委員の所属する組織を運営パートナーとした展開を図る。令和 2 年 1～3 月の事業開発フェーズでは、次年度以降の事業内容を検討した。令和 2 年 4 月から 12 月の期間で運用を行う。

② 社会デザイン・ビジネスラボ

中村陽一常任顧問が所長を務める立教大学社会デザイン研究所と株式会社 JSOL にて、令和元年 12 月 12 日に設立した、社会課題解決と新規ビジネスを創出する研究会「社会デザイン・ビジネスラボ」からの依頼により、ソーシャルビジネス開発に関するネットワーキングやアドバイスをを行った。次年度も継続展開を予定。

● 第 1 回【テーマ:食】これからの『食』を考える

DAY1：令和元年 7 月 9 日(木) 13:00～17:30

DAY2：令和元年 7 月 16 日(木) 13:00～17:30

(場所)3×3 Lab Future

(参加者)40 名

(内容)

DAY1：講演：藤田 和芳 代表理事。講演後、チーム組成、ビジネスアイデア出し、意見交換を行うワークショップを実施。

DAY2：講演：富山 泰庸 フェロー、他。講演後、DAY1 で出てきたアイデアをベースに深堀を行うワークショップを実施。

DAY2 後、ビジネスアイデアごとにチームビルディングを行い、個別ミーティングによる事業推進を行う。

コロナウイルス感染拡大の状況を考慮しながら、第 2 回は「防災」、第 3 回は「地域」をテーマとしたソーシャルデザインビジネスを開発予定。

③ 丸の内プラチナ大学

今期も前期に続き、「丸の内プラチナ大学」第四期の展開として、以下の内容で実施した。

【Social SHIFT テーブル～ソーシャル・アントレプレナーと語り合う連続講座】

- 開催日、ゲスト講師：
 - ・ 令和元年 7 月 12 日：植木力 常務理事
 - ・ 令和元年 9 月 26 日：小山訓久フェロー
 - ・ 令和元年 10 月 11 日：進藤均 理事
 - ・ 令和元年 10 月 25 日：小川 佐智江 氏 オイシックス・ラ・大地 (株)人事／MYSH sake bar 女将
 - ・ 令和元年 11 月 15 日：振り返りとディスカッション
- 講師：石井綾 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク事務局
- 会場、開催時間：3×3 Lab Future、18:30～20:30
- 参加人数：各回 13 名

【SDGs 経営実践コース】

- 講師: 笹谷秀光(株式会社 伊藤園 顧問、日本経営倫理学会理事、グローバルビジネス学会理事、サステナビリティ日本フォーラム理事)
- ファシリテーター: 臼井 清氏 (合同会社志事創業社 代表)
- モデレーター: 町野弘明 専務理事・事務局長
- 開催日: 令和元年 9 月 10 日、10 月 8 日、10 月 29 日、11 月 12 日、11 月 19 日
- 会場、開催時間: 3×3 Lab Future、18:30~20:30
- 参加人数: 38 名

来期は以下の内容で実施予定。

【Social SHIFT テーブル・コース】

- 開催日、ゲスト講師:
 - ・ 令和 2 年 10 月 16 日: 高津玉枝フェロー
 - ・ 令和 2 年 10 月 23 日: 富山泰庸フェロー
 - ・ 令和 2 年 10 月 30 日: 石田達也フェロー
 - ・ 令和 2 年 11 月 6 日: 杉浦裕樹フェロー
 - ・ 令和 2 年 11 月 13 日: 株式会社リヴァ代表取締役 伊藤崇氏
- 講師: 石井綾 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク事務局
- 会場、開催時間: オンライン(Zoom)、19:00~20:30

【SDGs 経営実践コース】

- 講師: 笹谷秀光(千葉商科大学教授、株式会社伊藤園 元取締役、日本経営倫理学会理事、グローバルビジネス学会理事、サステナビリティ日本フォーラム理事)
- 開催日: 令和 2 年 11 月 11 日、11 月 25 日、12 月 23 日、1 月 13 日
- 会場、開催時間: オンライン(Zoom)、19:00~20:30

1.1.3 フォーラム

「ソーシャルビジネス白書」の刊行に合わせたフォーラムを開催した。(「ソーシャルビジネス白書」の詳細については、「1.3 政策提言(アドボカシー活動)の推進」 > 1.3.1 「「ソーシャルビジネス白書」の発行」参照)。

- タイトル: 日本初刊行「ソーシャルビジネス白書」からみるソーシャルビジネスの これまでとこれから
- 登壇者: 中村陽一 常任顧問、川北秀人 理事、宮城治男 理事、町野弘明 専務理事・事務局長
- 開催日時: 令和元年 6 月 27 日 18:30~20:00

- 会場: 3×3 Lab Future
- 参加人数: 85 名

第 1 号の発行に向けた準備を意図し、総会后、コロナ禍でのソーシャルビジネスの現状に関する聞き取りを意図したオンラインフォーラムを開催。

- タイトル: ウィズコロナ時代におけるソーシャルビジネスのあり方を考えるセッション
- 登壇者: 中村陽一 常任顧問、川北秀人 理事、植木力 常務理事、町野弘明 専務理事・事務局長
- 開催日時: 令和 2 年 8 月 27 日 14:00~15:30
- 会場: オンライン (Zoom)

1.1.4 コミュニティ

① 自然エネルギー・シフト コミュニティ

引き続き担当である鈴木亨理事を中心に、小出浩平フェロー、大場龍夫フェローと共に、プロジェクト・プロデュース型で地域案件をベースに展開を推進した。神奈川県逗子市への提案を意図し、胤森なお子理事が推進する「フェアトレードタウン」に関する勉強会を開催した。

- 開催日: 令和元年 5 月 13 日、6 月 25 日、7 月 27 日、8 月 26 日、10 月 3 日、11 月 5 日、12 月 19 日、6 月 22 日、7 月 14 日、8 月 20 日

今後は、『ウィズ・コロナ/ポスト・コロナ時代の理想の社会を描く～持続可能で自律分散化できる処方箋とは?』をテーマとした勉強会(オンライン)を 9 月・10 月・11 月・12 月に開催を予定。

第 1 回の 9 月 24 日(木)は、熊野副代表理事(アマタホールディングス株式会社 代表取締役会長兼社長)が登壇予定。1 月以降も勉強会の開催を計画中。

② 障がい者雇用コミュニティ

障がい者雇用を中心としたテーマ領域で、ソーシャルビジネスとしてのスケールアウトと関係するプレイヤーの拡充を図ることを目的とし、新メンバーによる勉強会を展開した。

- 勉強会タイトル: ソーシャル・リーダーシップに関する研究会～障がい者雇用、社会的弱者支援等をテーマとしたソーシャルビジネス開発を意図して～
- メンバー: 海津歩常務理事、町野弘明専務理事・事務局長、進藤均理事、池本修悟フェロー、風間英美子フェロー、他、外部メンバー
- ゲスト講師: 大場龍夫フェロー、富山泰庸フェロー
- 開催日: 令和元年 5 月 14 日、6 月 10 日、7 月 10 日、8 月 22 日、9 月 19 日、11 月 18 日

令和 2 年度 of 取組みについては、海津歩常務理事と検討中。

③ SDGs ビジネス・ラボ

「丸の内プラチナ大学」での展開をもとに、実践的な事業開発を意図する「SDGs ビジネス・ラボ」を、笹谷秀光氏をラボ長、町野弘明 専務理事・事務局長をモデレーターに実施した。

- 開催日時:
 - ・ 第1回: 令和元年 5月28日
 - ・ 第2回: 令和元年 6月19日
 - ・ 第3回: 令和元年 7月2日
 - 時間、会場: 19:00~20:30 3×3 Lab Future
 - 参加人数: 10名
- 令和2年度の取組みについて、笹谷秀光氏と検討中。

1.2 社会事業家 100人インタビュー

100人へのインタビュー実現に向け、継続展開を図った。

コロナウイルス感染拡大の状況に配慮しながらの継続展開を予定。

回	開催日時	開催場所	ゲスト	参加人数
61	令和元年 10月3日 19:00 ~ 21:00	ETIC.ソーシャル ベンチャー・ハビ タット	(特活)豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク 理事長 栗林 知絵子さん	8人
62	令和元年 10月9日 19:00 ~ 21:00	ETIC.ソーシャル ベンチャー・ハビ タット	(公財)共用品推進機構 専務理事兼事務 局長 星川 安之さん	7人
63	令和元年 12月17日 19:00 ~ 21:00	SBN 事務局	(特活)育て上げネット 工藤 啓さん	7人
64	令和2年 2月24日 18:00 ~ 20:00	日本自然環境専 門学校 1F	(特)まちづくり学校 山賀 昌子さん	4人
65	令和2年 3月16日 19:00 ~ 21:00	ETIC.ソーシャル ベンチャー・ハビ タット	(特)HELLOlife 塩山 諒さん	9人

1.3 政策提言(アドボカシー活動)の推進

1.3.1 「ソーシャルビジネス白書」の発行

川北秀人理事の発案のもと、政策提言(アドボカシー活動)として、「ソーシャルビジネス白書」を発行すべく、川北理事を編集長に、中村陽一常任顧問(委員長)、宮城治男理事、町野弘明常務理事・事務局長を委員とした委員会を形成。ソーシャルビジネスに関する実態調査(回答数 131 団体)の結果をもとに、3回にわたる委員会での検討を経て、令和元年6月に「ソーシャルビジネス白書」(0号)を発行した。

発行後、令和元年9月12日に検討委員会を開催し、0号の評価と課題を確認。その際に上がった、資金源の確保、情報公開(調査協力)の推進などの課題をふまえ、1号の発行に向けた資金源と体制について検討を図った。

来期の展開に関しては、コロナウイルス感染拡大の影響なども配慮した形での検討を進める。

1.3.2 「首都圏若者サポートネットワーク」への協力

社会的養護を取り巻く課題から家族の後ろ盾もなく困難に直面する子ども・若者の自立を支援する取組みとして「首都圏若者サポートネットワーク」が設立され、池田徹 顧問(ユニバーサル志縁センター代表理事)、からの要請で、「首都圏若者サポートネットワーク」の事務局長を務める池本修悟フェローと共に広報や就労支援などの協力を検討した。今後の取組みについては検討中。

2 組織運営報告・組織運営計画

1.1. 会員について

会員A:7社、法人会員B:8社、個人会員14口という状況であった。会費に加え、講座やイベント等での登壇や人材紹介、会場提供等、様々なファシリティ提供や協力を得た。

1.2. 広報・PR

引き続き、メールマガジンやフェイスブック等での情報発信を行ってきた。

1.3. 定例会議

計画に基づき定例会議を開催した。

【開催日程】

種別	開催日時 (開催場所)	議題	参加者 (定足数)
社員総会	令和元年6月27日 17:00~18:15 (3×3 Lab Future)	第1号議案:人事について 第2号議案:平成30年度事業活動報告 第3号議案:平成30年度事業収支報告 第4号議案:平成31年度事業活動計画 第5号議案:平成31年度事業収支計画	社員106名中、出席18名、委任36名、計54名

理事会	令和2年1月8日 18:00~20:00 (ソーシャルビジネス・ネットワーク事務局 会議室)	第1号議案: 人事について 第2号議案: 令和元年度事業活動中間報告 第3号議案: 令和二年度事業活動計画の考え方	理事21名中、出席9名、委任9名、計18名
-----	---	---	-----------------------

II. 中期活動計画の考え方

中長期改革の推進

引き続き、三か年の中期的なスパンで、組織や事業戦略に関する検討を行う。今後の中長期的な視野でビジョン・ミッションや体制・活動などのあり方も改めて見直し、改革を図っていく。

この間の活動や検討から、例えば以下のような改革の方向性・考え方が見出されてきているが、次年度、設立から10周年を迎えることもふまえ、事業の集約や体制の検討を行うことが望ましいと考えられる。

【改革の方向性・考え方】

A. 現状におけるミッションの明確化

- ・ソーシャルビジネス普及啓発→ソーシャルタウン・プロデュース(シフトラボ等)
- ・自律分散型の自立型自治共同体モデルの速やかな構築・実践(持続可能経済協会<SEA>との連携)
- ・オールジャパンで唯一の業界団体としてのつながり・交流継続(ゆるくても)

B. グローバル、サステナブルかつ未来志向の研究対応の推進

- ・SDGs や CSV 等の直近のソーシャル・ビジネストレンドへの対応(プラチナ大学での展開、未来まちづくりフォーラムへの後援、等)
- ・IoT やシェアエコノミー等の最新科学技術展開との連携(東大・情報学環との協働等)
- ・ソサエティ5.0 やインクルーシブモデル等、フューチャーイン対応(専門フェロー等参画)

C. 経済団体としての持続可能な事業型の運営



- ・地方創生や働き方改革等の直近の行政施策への事業開発対応(beyond2020 ソーシャルイノベーション・プロジェクトの推進等)
- ・SB ノウハウによる企業や自治体コンサルテーション(シンクタンク型)受託推進(SDGs ビジネス・ラボ等との連携)
- ・行政や社会に対するアドボカシー活動の推進(白書や政策提言・啓発への参加等)
- ・会費やファシリティ提供等によるメンバーの参画性が向上する環境づくり